

② 館山野鳥の森と安房神社境内林 伊豆諸島の影響を受けた植生と癒しの森 30 選

【概要】館山野鳥の森は、県内6箇所の県民の森の中で最も南に位置する。南房総の館山市南部、地形は急峻であるが、歩道はよく整備されている。隣接する安房神社の境内には、クスノキやイヌマキなど、巨樹・古木が多く見られる。この地域の植生の特徴として伊豆諸島の植生の影響が見られる。

【森林の特徴と見所・歴史文化】

「館山野鳥の森」は、昭和49年に「県立バードセンター」を県民の森として引き継いで開園した。

「水源かん養保安林」及び「保健保安林」に指定され、治山事業の一環として、植栽工事や遊歩道が整備された。一年を通じて野鳥、自然観察、ハイキングなど家族連れで親しめる。また、県内唯一の「森林浴の森100選」に指定されているほか、県内でも「ちば眺望100選」、「健康と癒しの森30選」に選定されている。展望台からは平砂浦海岸とその先には富士山を眺望することができる。また、鋸山、伊予ヶ岳も望める。標高146mの天神山からは、眼下に太平洋が望め、伊豆大島を間近に見ることができる。

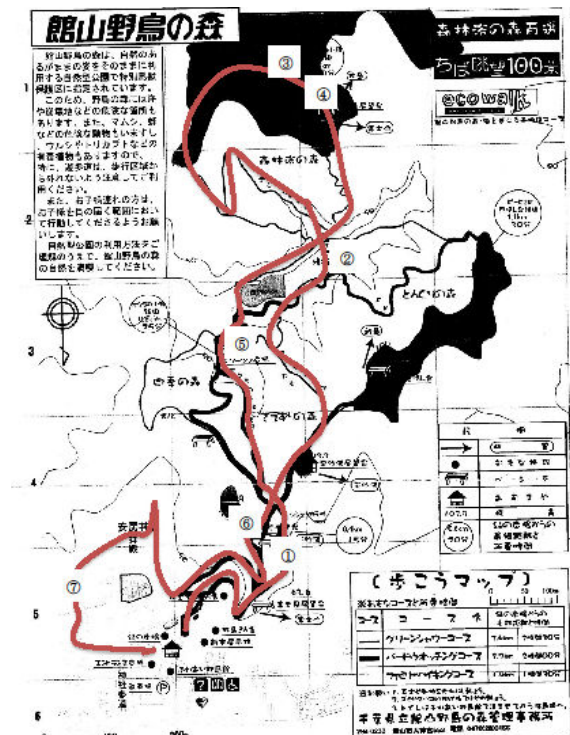
館山野鳥の森管理事務所のすぐ南の歩道脇の北斜面には、モミの木2本、ホルトノキ1本、スギ1本などの常緑樹の大径木が生育しており、カラスザンショウなどの中高木の落葉樹も混じる。

南側の斜面から天神山にかけてはコナラ、サクラ類、スダジイ、タブノキなどの落葉樹と常緑樹の混交した林となっている。

また、「水辺の森」北東面のコナラ林、南端のマテバシイ林、天神山北面のスダジイ林、ヒサカキの萌芽林、サクラ林などが観察される。

高木層には、スダジイ、マテバシイ、アカガシ、ヤブニッケイ、タブノキ、クスノキ、スギ、サクラ類、カラスザンショウなどが、中低木層にはヒメユズリハ、ヒサカキ、アオキ、イヌビワなどが観察される。林床には、ヤブコウジ、イノデ、アスカイノデ、カントウカンアオイ、コゴメナキリ、ヒメカンスゲなどの草本が生育している。また、谷間の湿地には、水田跡地に植林されたスギ科の落葉性針葉樹であるメタセコイア、ラクウショウが植栽されている。

この地域の植生の特徴的なものとして、伊豆諸島の影響を受けたエノシマキブシ、アムラサキ



シキブそしてカズサザクラが生育している。伊豆大島の影響を受けたエノシマキブシ、アムラサキシキブそしてカズサザクラが生育している。これは、伊豆大島を含む伊豆諸島は火山島で初めは不毛の地であったが、氷河期に海が退きほとんど陸続きになった時代に本土から多くの植物が渡ったことにはじまると考えられる。すなわち、これらの植物は、暖かい海洋性気候のもとで隔離されて独自の進化を遂げ、暖地に適応した固有種が生まれた。氷河期と間氷期を繰り返すたびに、同様なことが起こり、結果として祖先種との交雑が起こり新たな種（亜種）が多数できた。そのような種の中で、ここで観察できるのはエノシマキブシとアムラサキシキブである。また、伊豆諸島の固有種とされるオオシママザクラとヤマザクラとの交雑種であるカズサザクラも多く見られる。また、暖地性のシダであるハチジョウカグマも観察できる。

この森で観察された野鳥は年間 70 種で、これまでに 106 種が報告されている。

館山野鳥の森の南西側は、安房神社が接している。天太玉命（あまのふとだまのみこと）を主祭神とする、安房一宮。明治4年に官幣大社に列せられた。境内には御神木のイヌマキ、イチヨウの巨木2本、クスノキの大径木 10 数本のほか、オガタマノキの古木も見られる。

【コース紹介】

野鳥の森管理事務所から大型ネット禽舎の脇を進む。ここで安房地域の高木層を代表するホルトノキの大径木を観察できる。やや急な坂を少し登るとまもなく富士見展望台。さらに林の中を進むと左にエノシマキブシが生育する林に入る。この先の分岐点を右に進むと平砂浦展望台。すぐこの先の分岐を左に進む。「コナラの小径」を下り途中から「癒しの森」コースを辿って「水辺の森」へと進む。ここには、メタセコイアとラクウショウが植栽された林がある。ここから急峻な登りが続く天神山への周遊コースとなる。「アジサイの小径」を登って行くと山頂近くが急坂となっているが、距離は短いのでゆっくり進めば問題はない。

天神山（標高 146m）山頂には東屋があるが展望はよくない。ここで一休みして「サクラの小径」を下るとすぐ左に大島展望台があり、伊豆大島が眼前の間近に見られる。ここからは急な下り坂になり滑りやすいので注意しながら進むと再び「水辺の森」に戻る。谷津沿いを真っ直ぐ道を進むとピクニック広場に至る。ここからは登りとなるが「サクラの小径」を経て、分岐を右に折れればすぐ左に「国見展望台」がある。ここからは下り、で、分岐を右に折れて2本のモミの大径木の下を通過して一気に安房神社へ降りる

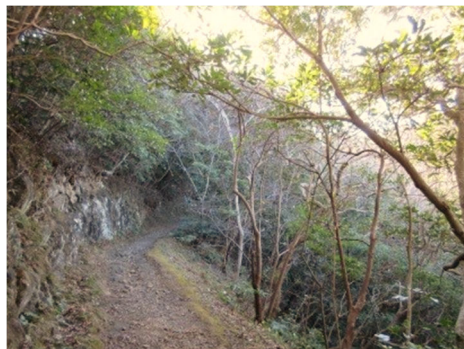
【キーワードについての一言メモ等】

[固有種]: その地域にしか生育しない生物学上の種。島国に多い。伊豆諸島にはハチジョウキブシ、オオムラサキシキブ、ハチジョウススキなど多数の固有種がある。いずれも暖かい海洋性気候に育まれ、葉などが大型化している。

[交雑]: 遺伝子組成の異なる二個体の交配。特にサクラは同じ種でも花の大きさなどが個体によって異なっている(変異)が、さらに他種との交雑も容易に起こる。特に安房地域は園芸が盛んで園芸種も多く、また、狭小なために交雑がすすみ大きさに言えば1個体ずつ形態が異なっている。伊豆

本サイトの記事・画像等の無断転載は禁じます。

諸島の固有種と祖先種との雑種は、それらの中間的な形態を持つ。



エノシマキブシの見られる林



大島展望台から 伊豆大島と富士山

コースで見られる主な植物

スダジイ、マテバシイ、アカガシ、ヤブニッケイ、シロダモ、タブノキ、クスノキ、ホルトノキ、スギ、モミ、カズサザクラ、カラスザンヨウ、ハリギリ、オオバヤシャブシ、センダン、ハゼノキほか

【草本類】

ツワブキ、ノコンギク、ユウガギク、ヒヨドリバナ、タチツボスミレ、コスミレ、ヒメウズ、ニリンソウ、ツクバトリカブト、ヤマネコノメソウ、シュロソウ、ツリガネニンジンほか

【外来植物】

セイタカアワダチソウ、タマサngo、アメリカセンダングサ、コセンダングサ、ヒメオドリコソウ、ハダカホオズキなど

野講座企画のための情報

FS 指数 : 水平距離 : km 登高 m

トイレ : 管理棟

昼食場所候補 : ピクニック広場、管理棟前広場

安全確保上の留意点 : 急坂下りで滑らないよう注意

近隣の見所 : 布良浜、布良崎神社、安房自然村周辺